平成２９年９月 南魚沼市議会定例会
一般質問順位表

質問順位	議席番号	質　問　者
1	16	寺　口　友　彦
2	15	小　澤　　実
3	18	岡　村　雅　夫
4	2	中　沢　道　夫
5	6	佐　藤　　剛
6	13	塩　谷　寿　雄
7	25	若　井　達　男
8	7	田　村　眞　一
9	8	中　沢　一　博
10	1	田　中　せ　つ　子
11	22	牧　野　　晶
12	4	永　井　拓　三
13	5	塩　川　裕　紀
14	23	阿　部　久　夫
15	14	清　塚　武　敏
16	3	広　田　公　夫
17	17	中　沢　俊　一
18	21	阿　部　俊　夫
19	24	関　　常　幸
20	12	鈴　木　　一
21	20	腰　越　　晃
22	10	桑　原　圭　美
23	19	樋　口　和　人
24	9	勝　又　貞　夫
計		２４名

【質問方式】（いずれも質問制限時間（答弁時間を含まない。）は 30 分）

一括質問一括答弁方式：　全質問項目を一括して行い、答弁も一括して行う。（初回は登壇して行い、質問回数は３回まで。）

一問一答方式：　質問及び答弁を一問ずつ行う。（ただし初回の質問は、登壇して最初の質問項目のみをまとめて行う。質問回数に制限なし）

複合型一問一答方式：　一問一答方式において、質問大項目の最初の質問はまとめて行い、以降は一問ずつ行う。

質問順位	質　問　内　容
1 議席 １６ 寺口友彦 （一問一答方式）	**１　行財政改革・市民参画** （１）大原運動公園事業の事務事業をどう評価しているのか。 （２）その事務事業評価をどのようにして市民の皆様に伝えるのか。 （３）公共施設総合管理計画策定の進捗状況はどうなっているのか。 （４）市民の皆様に計画を公表する段取りはどうなっているのか。 **２　保健・医療・福祉** 市民病院敷地内に医療モールをつくり、民間との連携で回復リハビリ医療に取り組む考えは消えたのか。 **３　産業振興** クラウドファンディングで集めた資金を公共サービスの中でどこに使おうと考えているのか。

質問順位	質　問　内　容
2 議席 15 小澤実 （一問一答方式）	**1　局所的豪雨災害について** 梅雨も後半に入った7月18日、大和地域は5時間ほどの猛烈な雨により、山腹崩壊による土砂の流出、家屋への浸水、道路水路の浸食・洗掘、水田の畔抜け、畑地の冠水などで、施設や農作物に甚大な被害が生じた。7月19日には専決処分され、農林施設災害復旧費と公共土木施設災害復旧費にて復旧が進んでいる。しかし、小規模災害で査定から落されたものが、地域広域協定の「多面的機能支払い交付金事業」や地域づくり協議会の「基礎事業」で対応できないかとの声を聞く。今後も局所豪雨は想定される。それらを踏まえ、市の復旧の対応策の改善について伺う。 **2　災害時の市民への周知方法について** 8月29日午前6時2分、総務省消防庁のエリアメールで「ミサイル発射。ミサイル発射。北朝鮮からミサイルが発射された模様です。頑丈な建物や地下に避難してください」と政府から発表があった。「我身の安全を確保する行動」をとる為に、防災ラジオについては各行政区の班長までは配布をしているが、それよりも市民全体に周知できる防災行政無線に切り替える考えはないか。

質問順位	質　問　内　容
3 議席 18 岡村雅夫 （一問一答方式）	**1　ＣＣＲＣより暮らし応援** 「南魚沼版ＣＣＲＣ構想の浦佐地区コア事業の居住施設については、市がリスク負担を負わない方向で協議している。この基本方針を守りながら、事業者のリスク負担を低減して事業化を推進できるよう調整を進めている。」と所信表明にある。 （１）市がリスク負担を負わないで、事業者のリスク負担を低減する調整は整合性がない、理解できるよう説明を求める。 （２）ＣＣＲＣ構想に、既に投入された額と費用対効果の検証を伺う。 （３）ＣＣＲＣ構想では新たな産業の創出や雇用を生み出す仕組みづくりと謳っているが、地域資源を生かしたまちづくりで雇用創出を目指すべきと考える。新たに投資して箱物をつくって不確実な事業にリスク負担はしないで、すでに投下された基幹病院・市民病院群を基軸とした医療福祉のまちづくりを進め、雇用の拡大、定住人口の増大、税収増など経済循環社会の構築を目指すべきと考えるが所見を伺う。 （４）ＣＣＲＣより暮らし応援が急務と考える。私たちが行った「市民アンケート」では、市民からも不評だ。基軸事業として取り組むべきものではないと考える。撤退を決断すべきと考えるが所見を伺う。 **2　原発再稼働について** 原子力規制委員会が柏崎刈羽原発６号機、７号機の審査で、事実上の合格証に当たる審査書案を近く取りまとめる方針を固めたと報じられた。 市長は、現状での再稼働は反対と公約しているが、合格となった時点での考えを伺う。

質問順位	質　問　内　容
4 議席 2 中沢道夫 （複合型一問一答方式）	**1　個人の雪処理に市が積極的に関わっていく考えはないか** （１）住み続けられる町作りという点では、個人の雪処理にも市が関わっていく必要があると思うが、市長の見解を伺う。 （２）長野県栄村で実施している「雪害対策事業」のような事業を南魚沼市でも実施する考えはないか。 **2　農業政策の転換を国に求めていく考えはないか** （１）来年の減反廃止に伴う生産と集荷の方針が示されたが、これによって米価の安定が図られると思うか、市長の見解を伺う。 （２）米の直接支払の復活を求める考えはないか。

質問順位	質　問　内　容
5 議席 6 佐藤剛 （一問一答方式）	**林市政の地域経済振興策を問う** 地域産業の現状は、人の流れも経済も東京一極集中の中で、景気は低迷を続け、経済及び雇用等の格差が拡大している。加えて、地方の経済を支える中小企業、小規模事業所は、売上高の伸び悩み、後継者問題、人手不足、設備の老朽化といった課題を抱えている。このことは、南魚沼市も例外ではない。国は地方創生や小規模事業支援の法整備等も行っているが、人口減少対策、産業振興、雇用創出の観点で、以下の点について林市政の考えを伺う。 （１）グローバルＩＴパーク構想、サテライトオフィスの方向性は。 （２）中小企業振興基本条例を踏まえた今後の中小企業支援は。 （３）広域連携による「魚沼地域」全体の経済振興を。 ①広域連携による戦略的な観光振興と新幹線浦佐駅活用 ②魚沼圏域全体での「魚沼ブランド」の推進と発信

質問順位	質　問　内　容
6 議席 13 塩谷寿雄 （一問一答方式）	**1　市の防災について** 北朝鮮の軍事行動に対して。 **2　市長が思う南魚沼市の戦略・要望は** （1）農業、中山間地について （2）生産調整廃止に伴い、南魚沼産米の営業戦略について （3）雪を力に変える施策は。 （4）三俣ダムの復活は。

質問順位	質　問　内　容
7 議席 ２５ 若井達男 （一括質問一括答弁方式）	**林市長のめざす南魚沼市とは** 市長就任以来やがて１年をむかえようとしている。選挙公約の実現、日常の市政運営に正に邁進中である。敬意を表すところである。以下を伺う。 （１）人口減少問題への取組は如何か。 （２）地域医療と福祉の取組は如何か。 （３）国の生産調整廃止後の市の米生産取組は如何に。 （４）市財政への考えは。 （５）新年度予算編成の基本的な考えを伺う。

質問順位	質　問　内　容
8 議席 7 田村眞一 （複合型一問一答方式）	**１　北朝鮮の弾道ミサイル発射による市民の不安を取り除くために** **２　営業と暮らしを守るため高すぎる国保税の引き下げを** （１）国保の構造的問題についての認識は。 （２）商売が続けられるよう払える国保税にすべきだが。 （３）全国知事会のように国庫負担率の引き上げを国に求めるべきだが。 **３　子ども医療費助成の対象を高校卒まで拡充を** （１）自治体の第一の仕事は福祉の増進だが認識は。 （２）市の税金の使い方について （３）高校卒までの拡充は親の負担軽減につながるが。

質問順位	質　問　内　容
9 議席 8 中沢一博 （一問一答方式）	**1　当市の「地域包括ケアシステム」の構築推進について** 高齢者になっても住み慣れた地域で必要な支援を受けられる「地域包括ケアシステム」構築について、在宅医療・介護・予防・生活支援の充実が求められている。 そこで、当市における介護の基盤強化について伺う。 （１）当市の第７期介護保険事業計画の方向性を伺う。 （２）認知症対策における初期支援チームの設置状況は。 （３）介護休業制度の拡充について （４）介護職の処遇改善の現状について （要支援の人向けのサービスへ、市独自の認定ヘルパー資格養成含む。） （５）介護支援ボランティア制度について **2　がん対策強化と健康寿命について** 我が国において、がんは昭和 56 年から死因の第１位であり、平成 26 年には年間 37 万人が亡くなり、生涯のうち約２人に１人ががんにかかると言われている。市民の生命と健康を守る上で、がん対策は最重要課題である。一方で、がん対策を進めてきた結果、かつての「不治の病」は「長く付き合う病」になったとさえ言われている。そこで伺う。 （１）第３期「がん対策推進基本計画」策定について、当市の重点施策は。 （２）ビッグデータ活用における健康寿命について （３）がん患者の就労支援について

質問順位	質　問　内　容
１０ 議席 1 田中せつ子 （一問一答方式）	**１　第３次南魚沼市男女共同参画基本計画について** （１）重点目標２「教育による取組の充実」の中に、学校教育を通じて男女共同参画に対する正しい理解を浸透させることが重要とあり、大きな影響を与える取組と考える。 ①推進プランでは「学校教育においては、男女混合名簿となっており取組が進んでいる」とあり、小学校では全て混合名簿だが、中学校では城内中学校のみである。その理由を伺う。 ②来年度開校の統合八海中学校の名簿は、どのように考え進めるか。 （２）重点目標４「地域における男女共同参画の推進」の中で行政区長・副区長の女性割合は平成 28 年度実績０％で、固定的性別役割分担意識が根強く残る状況とある。役員選考に苦慮する地域もあり、積極的な取組が必要と考える。基本計画が施行され 10 年を過ぎたが、行政区長会での新たな取組はあるか。 **２　ワークライフバランスの周知・促進について** 多様で柔軟な働き方を実現し、性別にかかわりなくその能力を充分に発揮できる社会づくりを推進するには、県のハッピーパートナー企業に登録している南魚沼市が民間企業の手本となるべきと考える。 （１）市職員の時間外勤務は部署別・個人別で不均衡はないか。 （２）職員の有給休暇の取得率は適切か、退職時に全消化できているか。 （３）市職員の育児休業取得率は向上しているか。 （４）メンタルヘルスケアにはどのように取り組んでいるか。 （５）女性管理職の登用を今後どう進めるか。

質問順位	質　問　内　容
１１ 議席 ２２ 牧野晶 （複合型一問一答方式）	１　これからもスピード感を持った市政運営、公約実現を ふるさと納税制度や、全天候型子育て支援施設、井戸規制など就任スピード感を持ち１年経過しないうちに取り組んだことを評価する。 しかし、市民への事業に対する周知説明に対しては時間をかけても進みにくいことも現実だ。どのような考えで、これらの事業をスピード感をもって進めたのか。 ２　南魚沼応援団名簿を作成せよ ふるさと納税利用者、スキー場利用者、宿泊施設利用者の名簿を市で集め、メール、ＳＮＳ、郵便などで南魚沼の情報を発信しリピーターを増やすべき。 ３　ご当地ナンバー選定までの流れ （１）選定方法 （２）図柄は。

質問順位	質　問　内　容
１２ 議席 4 永井拓三 （一問一答方式）	**保育園、小学校、中学校のトイレについて** 現在、私たちの生活様式のトイレのほとんどが洋式だ。かつての社会は和式を中心に形成されていた。トイレの掃除が簡単であったり、便器との接触部分が少ないことから清潔であると言われてきた。一方で洋式トイレが台頭し、現代の家庭ではほとんどが洋式であることも調査で分かっている。公共の場や社会ではまだまだ和式が存在する中で、家庭では洋式が圧倒的に多い。このギャップのせいで、実は子供たちが学校で大便をすることができないという問題が発生していることも事実である。大便ができないことのストレスなどで体調を崩すだけではなく、いじめ問題に発展するケースも報告されている。報告では和式トイレの方が日本人の腸に対する刺激を与えるため、体の環境としては良いということも言われる。このような全てが天秤にかかった状態で和式、洋式の選択をすることが難しいことは理解しているが、社会事情と機器のギャップを今後どのように埋めていくかが課題である。故に市長に対して以下の質問をする。 （１）市の保育園、学校等でのトイレの改修計画はあるか。 （２）和式トイレから派生する諸問題を市はどのように捉えているか。

質問順位	質　問　内　容
１３ 議席 5 塩川裕紀 （一問一答方式）	**１　所有者不明土地について** 法務省は相続登記されずに所有者がわからなくなっている土地の本格調査に乗り出し、費用として約 24 億円を来年度の当初予算の概算要求に盛り込んだ。 近年、高齢化、少子化、未婚率の増加が叫ばれるなか、南魚沼市でも当てはまる事例があると思われる。現状と対策を伺う。 **２　統合八海中学校の生徒のメンタルケアについて** 来春、いよいよ統合八海中学校が始動する。県立高校の再編整備が進められているなか、受験を控えた生徒たちの心のケア、サポートについて市長の考えを伺う。

質問順位	質　問　内　容
１４ 議席 ２３ 阿部久夫 （一問一答方式）	**巻機山を中心とした山々を国立公園に組み入れを** 巻機山は、現在魚沼連峰県立自然公園区域であり、日本百名山として年間３万人からの登山者が訪れている。 登山口の清水集落には巻機山権現神社があり、機織りの神様として祀られている。巻機山は新潟と群馬の２県にまたがり、頂上付近は豊富な高山植物と神秘的な池塘群、緑の原生林に覆われた山麓、頂上からの展望の素晴らしさで知られており、春にはシャクナゲ、ニッコウキスゲ、ハクサンコザクラなどの珍しい花々が咲き誇る。また、珍しいアマツバメが営巣する洞窟もあり、保護区に指定されている。 巻機山を中心に、北東には八海山・中ノ岳・駒ヶ岳・平ヶ岳・浅草岳・守門岳、南には谷川連峰・苗場山・志賀高原・浅間山などの上信越高原国立公園などがある。 以前の上信越高原国立公園は、大雪山国立公園に次ぐ全国２番目の広さであり、３県 27 市町村にまたがっている。 その中で「妙高・戸隠地域」は飛び地の形態であることから、上信越高原国立公園からの「妙高・戸隠地域」分離独立運動を立ち上げ、平成 27 年３月 27 日全国 32 番目の「妙高戸隠連山国立公園」の誕生は記憶に新しいところである。 上信越高原国立公園も面積的に縮小された中で、巻機山・金城山・朝日岳・大源太山を上信越高原国立公園に組み入れていくべきと考えるが、所見を伺う。

質問順位	質　問　内　容
１５ 議席 １４ 清塚武敏 （一問一答方式）	**１　公共施設の今後のあり方について** 本市が所有する公共施設は、市役所などの行政施設や学校、文化施設、公営住宅など多岐にわたっている。施設によっては老朽化や耐震性の面での問題に直面している。人口減少・少子高齢化による公共施設に対する市民ニーズにも適切に対応する必要がある。公共施設の整備更新や、維持管理に支出できる財源には限りがあるなかで、今後、公共施設等総合管理計画では2017年から2046年までの30年で中・長期的に計画的な公共施設の縮減を目指すとしているが、今後の公共施設の在り方について市長の考えを伺う。 （１）公共施設マネジメントシステムの効果と期待は。 （２）防災拠点や一時避難所になっている、地区センター等の施設については、早期に対応が必要と考えるが。 （３）老朽化が進んでいる公営住宅は縮小していくのか。 （４）施設によっては今後、除却して土地の有効活用または売却を検討するのか。 **２　郷土学習にどう取り組んで行くのか** 地域には郷土の発展に貢献した先人たちの苦労や、伝統芸能・お祭り、豊かな自然や産物が数多くあるなかで、人口が減少している、高齢者が多くなっているなど地域の課題も多くある。幼児期から中学校まで年齢にあった郷土学習や体験が必要であり、それが南魚沼市に若者が帰って来られる、住み続けられることにつながると考える。そこで郷土学習（南魚沼学）にどう取り組んで行くのか伺う。

質問順位	質　問　内　容
１６ 議席 3 広田公夫 （一問一答方式）	**１　市職員の意識の向上を（職員の意識改革）** （１）市長は、市職員は支払われる給料に見合う、またはそれ以上の働きをすると示された。幹部職員の副市長・教育長・水道事業管理者・部長には、市長の公約実現に向け、どの様に示しているのか。 （２）勤務成績評定の公開と給料の昇給額への反映について ①市長は、人事評価の結果公表は 10 月の市報に掲載する、公表内容とか公表の範囲を検討中と示した。どの様に公表されるのかを伺う。 ②市長は、人事評価結果を給与や分限の人事管理に活用して、６月と 12 月の勤勉手当と平成 30 年の１月には昇級にも反映すると示した。評価４と５の割合が 20%以内の制限の中で、直近の評価で４と５の割合は各々何%か、各々何号級昇級するのか伺う。 ③平成 24 年～平成 28 年の休職・戒告・減給は 12 人～26 人/年で推移している。各々の年での、評価のランクと人数を伺う。 **２　小学校・中学校のタブレット教育について** ３月議会でも質問したが、他の市では、持ち帰りを検討している事例がある。 当市は、予算的に全児童生徒へのタブレット貸与は無理だが、早期実現に向け、持ち帰り運用を試行するとして時期はいつ頃か伺う。

質問順位	質　問　内　容
１７ 議席 １７ 中沢俊一 （一問一答方式）	**林市政での「断・捨・離」は軸足をどこに** 林市政の発足から間もなく10か月。前首長から引き継いだ政策に独自の配色を施す時期を迎えた。行政の継続性は当然尊重されなければならぬが、前任者より受け継いだ政策に、断・捨・離の姿勢で臨むのも新任者の大事な責務である。人口減少と高齢社会の進む中、決して潤沢とは言えぬ財政の下での施政は一筋縄ではいかぬだろうが、以下３点の重点策につき、戦略的見解を伺う。 （１）移住・定住策の評価及び今後の展開手法 （２）改定地下水条例（９月５日市議会通過）施行上の部局間及び民間との連携（学術的検証を含む） （３）水道事業改修へのコスト管理の徹底と料金改定の実現

質問順位	質　問　内　容
１８ 議席 ２１ 阿部俊夫 （一括質問一括答弁方式）	**１　厳しい財政に対する認識と公約実現の予算査定に臨めるか伺う** 歳入の３割以上を依存する国の交付税会計は、大幅な赤字である。合併特例の優遇措置も期限が迫り、普通交付税の一本算定等、頼りとする交付税交付金、国庫支出金あるいは国庫補助金等の補助率の見直しも心配される。 人口減少に歯止めはかからず、自主財源の柱の市税は 10 年前より８億円も減収となった。厳しい中、病院事業、ごみ処理施設、水道事業、学校統合、インフラ老朽化、高齢化問題等、難問は山積しているが、財政状況に対する認識を伺う。また、昨年は就任直後の予算査定だったが、１年が経過し、厳しい財政状況の中、新年度予算に公約実現を反映できるのか伺う。 **２　膨大な美術品をもっと有効活用すべきではないか** 合併によって「今泉記念館」、「鈴木牧之記念館」、「池田記念美術館」、「トミオカホワイト美術館」そして「棟方志功アートステーション」等、一市でこれほど多くの芸術文化の拠点となる施設・作品を有するのは全国でも珍しいのではないか。現在の入込み状況はどうか。旧大和町、旧塩沢町のことはよく知らないが、富岡惣一郎氏はこよなく六日町を愛し「雪国で生まれた作品は雪国に返す」という信条で、生まれ故郷の上越市ではなく六日町に寄贈してくれた。また、棟方志功やシャガールなど 362 点に及ぶ美術品も、拳銃で撃たれるという衝撃的な事件により 43 歳の若さでこの世を去った旧六日町出身田中政之氏のご遺族から「政之の生きた証を残したい」と寄贈されたものである。 このような収蔵品の貸し出し等、もっと活用を考えられないか伺う。

質問順位	質　問　内　容
１９ 議席 ２４ 関 常 幸 （一問一答方式）	**南魚沼市の未来と将来戦略について** 井口市政から林市政となり 10 か月。ふるさと納税、全天候型遊びの広場、地盤沈下区域の消雪用井戸新規掘削容認とスピード感をもって取り組み、水道料金の値下げ等にも実行するべく取り組んでいる。 グローバルＩＴパーク、お試しサテライトオフィスと国際大学の存在。モンスターパイプ、トレーニングセンター、スケートボードの日本有数の施設。医療再編は道半ば、医師・看護師が集まらない。魚沼ブランド・日本一の食、コシヒカリ、酒、八色スイカ。団塊の世代・2025 年問題とＣＣＲＣ。荒れる里山、自然災害と防災。 出産・子育て支援、学力の向上、障がい者と健常者「共生社会」、雇用機会の増、産業振興、人口減少問題等々。 多くの行政課題があり、課題解決のために 111 からの施策があり、主要事業というと 200 を超えると思う。 林市長が描く「南魚沼市の未来と将来戦略」について伺う。

質問順位	質　問　内　容
２０ 議席 １２ 鈴木一 （一問一答方式）	１　地域コミュニティにおける交付金事業について 地域コミュニティ交付金事業と市各課で行う事業の中間となる予算が無い。 交付金事業でやる事業には、予算から見ても限界がある。各地区の要望がその中で賄えない事業もある。行政は要望をコミュニティ事業に振り向けようとするが、予算から無理がある。交付金事業のさらなる充実が必要と考えるが、市長の考えは。 ２　いじめ問題について 人類ある限り未来永劫「いじめ」がなくなるとは考えにくい。昔、米作りが始まったころ、人々が集まれば荘園制度ができ、そこに長ができる。それが江戸時代へと続く、それと同じように考える。 しかし、現実に「いじめ」にあっている子どもたちを救ってやらなければならない。親にとっては、１日の３分の１は預けて任せているわけであるから、色々な心配があると思う。 パーフェクトはないと思うが、現状の課題と取組について市長の考えは。

質問順位	質　問　内　容
２１ 議席 ２０ 腰越晃 （一問一答方式）	**若者が帰ってこられる、住み続けられる故郷南魚沼、その人づくりと地域活性化は** 正に時代を超えて向かうべき南魚沼のまちづくりの基本テーマであり、３月 24 日付で南魚沼市ウェブサイトに掲載された市長の「むーけーげー」を拝読し、共感を覚えた。 南魚沼に生まれ、故郷を愛し、故郷を誇りとして逞しく成長し故郷に生きる。たとえその生きる場所が故郷でなかったとしても、南魚沼に生まれ育ったことを誇りとして生きる。 その基本は「人づくり」であると思う。大切なものは子どもたちを育む教育であり、常に活気と融和に満ちた地域社会であろうと考える。 市長の「人づくり」と「地域社会の活性化」への思いと、それを常に向上させる施策展開について伺う。

質問順位	質　問　内　容
２２ 議席 １０ 桑原圭美 （一問一答方式）	**小中学校の教育環境の整備を** 教育環境の整備を進めることは、南魚沼市の将来を担う子どもたちの育成に関わることであり、行政にとって重要な課題である。 先日、塩沢小学校にて「孫が和式トイレを使えずに困っている」という声があるということで、学校のトイレの洋式化・ウォッシュレット化を進めて欲しいという要望があった。結果、資金は市を頼らないという前提で一気に工事を進め、完了した。 市内の小中学校の校舎は、築30年以上経過したものが多く、時代と生活様式の変化に対応が遅れていることは否めない状況となっている。 時代の変化という観点では、暑さ対策も重要である。ここ数年は５月の後半から30℃前後の夏日となり、授業に影響が出ている。 トイレ、エアコンの整備に関しては、学校自体が地域活動の拠点としての役割を果たしていることや、災害時の避難所であるということから、妥当性のある事業として理解が得られるのではないだろうか。 また、市内の有能な人材活用と児童生徒の能力の向上を目指すには、学校と地域の連携は有効な手段である。現場の多忙化の解消や、地域の人材活用を積極的に進めるべきと考える。それに付随して、保護者の送迎の負担軽減に、市は対応できるかどうかを問いたい。 （１）小中学校のトイレの改修について （２）エアコンの設置について （３）部活等の送迎について （４）課外活動等への外部指導者の登用について

質問順位	質　問　内　容
２３ 議席 １９ 樋口和人 （一括質問一括答弁方式）	**１　流雪溝事業の進捗状況と今後の見通しについて** 六日町駅西側区域の流雪溝の整備について、ポンプ場やその設備、ある程度の流雪溝・送水管は整備されたが、その後は遅々として進まないように見える。 そこで現在までの進捗状況と今後の見通しについて伺う。 **２　ディスポーザーの導入、普及について** 前回の６月議会一般質問の中で、市長からはディスポーザーの普及に向けて大変前向きな姿勢を示していただいた。 その際、姿勢・気持ちは伺ったが、具体的にどのような方向で進めていくのかを伺う。 **３　重要無形文化財の継承発展について** 今議会の所信表明において「重要無形文化財である越後上布の技術保存、伝承に努める」と述べている。本当に素晴らしいことであり、大切なことだと認識している。 そこで、このことについて、具体的な考え、方策について伺う。

質問順位	質　問　内　容
２４ 議席 9 勝又貞夫 （一問一答方式）	**１　原発再稼働の最近の動きについて** 日本の原子力発電所の中で、柏崎・刈羽原発は最も危険性の高いものとの見方がある。この原発の再稼働へ向けた最近の動きについて、南魚沼市として近隣自治体と連携し、何らかの意思表示をするつもりはないか、市長の所見を伺う。 **２　行政改善について** （１）大和病院における経営改善の成果と、今後の全庁的展開について伺う。 （２）市民に対する行政システムの通年対応について伺う。 **３　学力向上について** （１）南魚沼市の教育現場における学力向上に向けた努力と、その成果について問う。 （２）スマートフォンの使用と学力低下について問う。